

新年あけましておめでとうございます。皆様には、心新たに仕事始めの日を迎えていただいたことと思います。平素より様々な分野で奈良県の子どものために御尽力いただき、心から感謝申し上げます。

令和2年3月11日にWHOが新型コロナウイルス感染症についてパンデミック宣言をしてからもうすぐ3年が経とうとしています。この間、学校現場では、今までにない対応を迫られ、教育の在り方が大きく変化しました。しかし、皆様の御努力により、子どもたちの学びを止めない取組を進めていただきました。また、学習指導要領の改訂と共に、ICT環境を活用した新たな学びの展開により、個別最適な学びと協働的な学びの一体的な充実など、教育の質の向上を一層図っていただいております。

さて、産業構造や社会システムが急激に変化し、地球環境問題等世界的課題の複雑化・不確実化や日本の産業競争力が低下する中で、Society5.0の到来に伴う社会変革を支える人材の育成が求められています。このため、これまでの学びを見直し、これからの社会を生き抜くために必要な問題発見・課題解決・創造力の醸成や俯瞰的なものの見方を身に付けさせる学びへの転換を図ることが急務と考えています。

現在、奈良県では第2期奈良県教育振興大綱のもと、子どもたち一人一人の「学ぶ力」「生きる力」を育む「本人のための教育」を行っており、県教育委員会では、「本人のための教育」を推進するために、「奈良の学び推進プラン」を策定し、ICT機器等も有効に活用しながら、子どもたちに対する「指導の個別化」と「学習の個性化」を図り、「個別最適化した学び」の実現に努めています。今までは、授業時間の多くを教師の板書や説明で占めていたり、子どもたちの発言の機会が限られたりしている、一律・一様で子どもたちが受け身の授業展開でした。しかし、このような形態の授業では、子どもたちそれぞれの多様な好奇心・探究心をかきたてることは困難です。そのため、子どもたち一人一人が持つ多様な個性・才能・創造性を伸ばすためには、子どもたちが必要な知識・技能などを習得したうえで、主体性をもって答えのない課題にチャレンジし、子ども同士の共同作業の中で、学びの楽しさや意義を感じられる学びへと転換する必要があると考えます。

そこで、1つ目にSubject-based型の授業展開からProject-based-learning型の課題解決型の主体的な学びの授業展開へと転換を行います。この実践においては、実社会との関係性に触れ、本物や一流のものに触れる機会を作り、多様な接点を持つことで、子どもたちの関心や興味はより一層広がりを持つことができます。そして、教科の学習内容が課題解決に生きているという実感を持つことができるよう、正しい答えにたどり着くことが重要ではなく、答えにたどり着くまでのプロセスを大切に、探究的な学びを積み重ね、実践的な課題解決能力を伸ばしたいと考えています。

2つ目にSTEAM教育の推進を図ります。今後の社会を生きる上で不可欠になる科学技術の要素と幸福な人間社会を創造する上で欠かせないリベラルアーツの要素を教科の枠組みを越えて学び、「知る」と「創る」の循環により、新たな「知」を構築し、自ら考え抜く力を育むことを目指します。

アルベルト・アインシュタインは、「教育とは、学校で習ったすべてのことを忘れてしまった後に、自分の中に残るものをいう。そして、その力を社会が直面する諸問題の解決に役立たせるべく、自ら考え行動できる人間をつくること、それが教育の目的といえよう。」と言っています。デジタル化、グローバル化、急速な少子高齢化の進展により、日本をとりまく社会環境は大きく変化している中で、子どもたち一人一人が、地域や地球規模の諸課題について自らの課題として考え、持続可能な社会づくりにつなげる真の力を付けるとともに、時代の変化に柔軟に対応し、自らの人生を創出することができる豊かな力を育めるよう、子どもたちの伴走者としてあり続けたいと思います。

本年が皆さんにとりまして、明るく希望に満ちた実り多い年となりますよう心から祈念申し上げます、新年の挨拶といたします。

令和5年1月4日

県教育委員会教育長 吉田 育弘